

ISOM'23 報告



ISOM'23 会場となった高松シンボルタワー

ISOM は、1985 年にスタートした SOM (Symposium on Optical Memory) を母体に 1987 年から継続的に開催されている国際学会であり、2023 年度は 11 月 19 日 (日) ~11 月 22 日 (水) の会期で、高松市の高松シンボルタワーにおいて、ISOM'23 (International Symposium on Imaging, Sensing, and Optical Memory 2023) がハイブリッド形式で開催された。光産業技術振興協会は ISOM スタート時からのスポンサーであり、今回も共催団体として小谷副理事長兼専務理事と ISOM 担当者が出席した。

ISOM における研究発表分野は、従来の光メモリ技術からイメージング、センシングを含む幅広い領域に拡張され、各分野の研究者から最新の研究成果が紹介された。

今回の ISOM' 23 の参加者数はここ 9 年で最高の 131 名を数え、開催国の日本と、台湾、中国、韓国、ヨーロッパ、USA、シンガポールからの参加があった。

ISOM'23 国別参加者数

| 日本 | 台湾 | 中国 | 韓国 | ヨーロッパ | USA | シンガポール | 合計 |
|----|----|----|----|-------|-----|--------|-----|
| 92 | 13 | 13 | 6 | 4 | 2 | 1 | 131 |

応募論文数は 78 件で、日本、台湾、中国などアジアを中心に応募があった。招待講演、ポストデッドラインペーパーを含めた 92 件について、Poster Session、Post Deadline を含む 18 のセッションが行われ、活発な討議が繰り広げられた。

Keynote としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の Aydogan Ozcan 教授による “Deep-learning-enabled computational microscopy and diffractive imaging” と題する講演及び、毎年恒例となっている特別招待講演として徳島大学の安井武史教授による “Dual-comb microscopy” と題する講演がそれぞれ行われた。

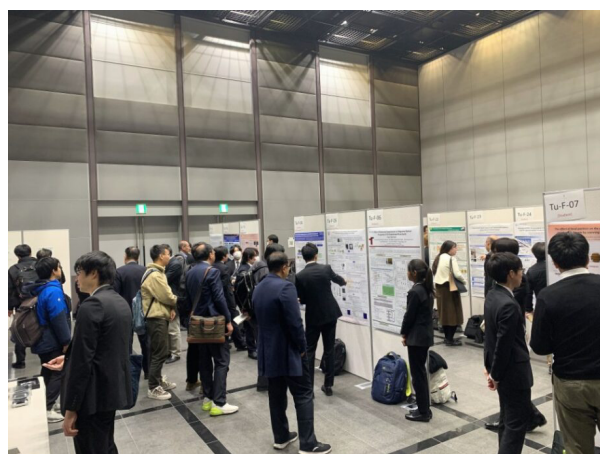
ISOM'23 国別応募論文数

| 日本 | 台湾 | 中国 | 韓国 | ヨーロッパ | シンガポール | 合計 |
|----|----|----|----|-------|--------|----|
| 52 | 11 | 9 | 2 | 3 | 1 | 78 |

今後も ISOM は、光メモリ技術をコアとしながらも関連する幅広い技術領域における最新の研究成果発表、技術交流の場として、技術・研究の発展に貢献していくことが期待されている。次回の ISOM'24 (<https://www.isom.jp/PDF/ISOM24FCP.pdf>) は、姫路市のアクリエひめじにおいて 2024 年 10 月 20 日 (日) ~10 月 23 日 (水) の会期で開催される予定である。



Oral Session



Poster Session



ISOM'23 参加者集合写真